

【3】再編計画

(1)上内小学校

[1] 学級数・児童数の推計 (平成14年5月1日推計)

年度	H14年	H15年	H16年	H17年	H18年	H19年	H20年
学級数	6	6	6	6	6	6	5
児童数	73	71	64	62	60	54	49

上内小学校は現在、児童数73人、学級数6学級で全学年とも児童数は20人を下回っている。平成14年度の児童数の推計では、平成20年度には全校児童数は49人となり、2年生(児童数5人)と3年生(児童数9人)の複式学級が生じ、5学級規模校となる見込みである。

しかし、同校は市内最大の通学区域(約7.2km²)を有し、校区最北東部の湯谷地区から同校までの通学距離は約4.35km、隣接する吉野小学校までの道のりは約2kmとなっている。

また、同校区内に九州新幹線の開通に伴う新大牟田駅建設に係わる地域開発が計画されており、特に、同校区の大字岩本地域には交通拠点としての駅前広場等の整備、交流・創造拠点としての観光施設等の整備等、新都市整備ゾーンとしての開発が予定されているところである。大牟田市と他都市を結ぶ拠点として発展していくことが見込まれており、児童数の増加に繋がる要因も考えられ、現段階では、開発後の児童数を推計することが困難な状況にある。

このような同校の地理的条件及び地域開発状況等を勘案し、隣接校の状況を含めて広域的に検討していくこととする。

(2)諏訪小学校と川尻小学校

[1] 学級数・児童数の推計 (平成14年5月1日推計)

	年度	H14年	H15年	H16年	H17年	H18年	H19年	H20年
諏訪小	学級数	6(1)	6(1)	6(1)	6(1)	6(1)	6(1)	6(1)
	児童数	144 (5)	134 (5)	127 (5)	117 (5)	117 (5)	118 (5)	106 (5)
川尻小	学級数	10	10	9	9	10	11	10
	児童数	256	259	246	249	253	269	264

()は特学で外数

[2] 再編した場合の学校規模の推計(平成18年度以降)

年度	H18年度	H19年度	H20年度
学級数	12(1)	12(1)	12(1)
児童数	370(5)	387(5)	370(5)

()は特学で外数

[3] 施設の状況

(ア)敷地面積

学校名	敷地面積
諏訪小学校	14,268㎡
川尻小学校	13,738㎡

(イ)校舎建設年度

	諏訪小学校	川尻小学校
校舎	昭和 38,39,40,62 年度建設	昭和 53,55 年度建設
屋内運動場	昭和 47 年度建設	昭和 45 年度建設
給食室	昭和 39 年度建設	平成 5 年度建設
プール	平成 2 年度建設	昭和 63 年度建設

諏訪小学校は昭和 62 年に管理棟を大規模改造

諏訪小学校は、平成 18 年度には児童数が 117 人(特殊学級児童数を除く)、6 学級(特殊学級 1 を除く)となり、1 学年 20 人を下回る学年が 4 学年に増加する見込みである。諏訪小学校は、昭和 20 年に現川尻小学校及び現大正小学校の大規模校解消のため、分離創立されたが、川尻小学校と近接した学校配置となっている。

そこで、諏訪小学校と川尻小学校の歴史的経過及び通学距離、中学校区との関係を考慮し、諏訪小学校と川尻小学校を再編し、通学区域を適切に定める。

(3)天道小学校と笹原小学校

[1] 学級数・児童数の推計

(平成 14 年 5 月 1 日推計)

	年度	H14 年	H15 年	H16 年	H17 年	H18 年	H19 年	H20 年
天道小	学級数	6	6	6	6	6	6	6
	児童数	135	129	126	118	105	99	92
笹原小	学級数	7	6	6	6	6	6	6
	児童数	227	206	200	196	187	166	156

[2] 再編した場合の学校規模の推計(平成 18 年度以降)

年度	H18 年度	H19 年度	H20 年度
学級数	11	10	9
児童数	292	265	248

[3] 施設の状況

(ア)敷地面積

学校名	敷地面積
天道小学校	12,961㎡
笹原小学校	24,387㎡

(イ)校舎建設年度

	天道小学校	笹原小学校
校舎	昭和54年度建設	昭和46,48,52年度建設
屋内運動場	平成2年度建設	昭和48年度建設
給食室	昭和54年度建設	平成6年度建設
プール	昭和56年度建設	昭和61年度建設

笹原小学校は平成6年、平成7年、平成10年に校舎全館を大規模改造

天道小学校は現在、児童数135人、6学級で、1学年20人を下回る学年が2学年である。平成18年度には児童数105人、6学級となり、1学年20人を下回る学年が4学年に増加する見込みである。天道小学校は昭和30年に笹原小学校の大規模校解消を目的に同校から分離創立された歴史的経過を持っている。

そこで、天道小学校と笹原小学校の歴史的経過及び通学距離、中学校区との関係を考慮し、天道小学校と笹原小学校を再編し、通学区域を適切に定める。

(4)玉川小学校

[1] 学級数・児童数の推計 (平成14年5月1日推計)

年度	H14年	H15年	H16年	H17年	H18年	H19年	H20年
学級数	6	6	6	6	6	6	6
児童数	154	141	135	129	127	121	110

玉川小学校は現在、児童数154人、6学級で、1学年20人を下回る学年はないが、平成18年度には児童数127人、6学級となり、1学年20人を下回る学年が2学年に増加する見込みである。

しかし、玉川小学校は市内南東端に位置し通学区域は約4.7km²で、東西に長く広がっており、同校区最東端の山口地域から同校までの通学距離は約3.15kmで通学時間は1時間以上を要する。同校から隣接する小学校までは約3kmと離れており、地域の広がりから隣接する学校との再編を考えた場合、通学距離は7km以上になることが予測される。

このような同校の地理的条件及び市南東部地域における学校配置の状況を考慮し、今後も児童数の減少が継続し、複式学級編制を行うことが予測される状況が出現した場合、その対応については、隣接校の状況を含めて広域的に検討していくこととする。

(5)上官小学校と大牟田小学校

[1] 学級数・児童数の推計 (平成14年5月1日推計)

	年度	H14年	H15年	H16年	H17年	H18年	H19年	H20年
上官小	学級数	6	6	6	6	6	6	6
	児童数	127	121	121	124	129	126	120
大牟田小	学級数	13	13	13	13	13	12	12
	児童数	398	397	389	384	381	349	343

[2] 再編した場合の学校規模の推計(平成18年度以降)

年度	H18年度	H19年度	H20年度
学級数	17	15	15
児童数	510	475	463

[3] 施設の状況

(ア)敷地面積

学校名	敷地面積
上官小学校	16,869㎡
大牟田小学校	13,733㎡

(イ)校舎建設年度

	上官小学校	大牟田小学校
校舎	昭和52,53年度建設	昭和29,57年度建設
屋内運動場	昭和46年度建設	昭和52,58年度建設
給食室	昭和53年度建設	昭和57年度建設
プール	昭和60年度建設	昭和57年度建設

上官小学校は現在、児童数127人、6学級で、1学年20人を下回る学年が1学年であるが、平成18年度には児童数129人、6学級でほぼ現状維持で推移する見込みである。しかし、1学年20人を下回る学年は2学年に増加する見込みである。

そこで、通学距離及び中学校区との関係を考慮し、上官小学校と大牟田小学校を再編し、通学区域を適切に定める。(6)三里小学校と三川小学校

[1] 学級数・児童数の推計

(平成14年5月1日推計)

	年度	H14年	H15年	H16年	H17年	H18年	H19年	H20年
三里小	学級数	6	6	6	6	6	6	6
	児童数	185	174	158	171	175	176	164
三川小	学級数	10 (1)	9(1)	9(1)	9(1)	8(1)	7(1)	8(1)
	児童数	269 (3)	256 (3)	261 (3)	257 (3)	249 (3)	245 (3)	251 (3)

()は特学で外数

[2] 再編した場合の学校規模の推計(平成18年度以降)

年度	H18年度	H19年度	H20年度
学級数	12(1)	12(1)	12(1)
児童数	424(3)	421(3)	415(3)

()は特学で外数

[3] 施設の状況

(ア)敷地面積

学校名	敷地面積
三里小学校	12,901m ²
三川小学校	17,187m ²

(イ)校舎建設年度

	三里小学校	三川小学校
校舎	昭和55年度建設	昭和55年度建設
屋内運動場	昭和41年度建設	昭和46年度建設
給食室	平成4年度建設	昭和55年度建設
プール	平成3年度建設	昭和63年度建設

三里小学校は現在、児童数185人で、学級数は6学級であり、1学年20人を下回ることはないが、6学級規模校で推移する見込みである。昭和8年に三里小学校の大規模校解消を目的に三川小学校が分離創立されたが、両校は近接した学校配置となっている。また、両校区は住民が一体となった取り組みを行っており、地域的なつながりも深い。

そこで、三里小学校と三川小学校の歴史的経過、地域の状況、通学距離及び中学校区との関係を考慮し、三里小学校と三川小学校を再編し、通学区域を適切に定める。